

平成22年8月5日  
文部科学省

平成21年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について

【調査項目・調査対象】

- ・ 不登校の状況（国公立・小中学校）  
※ 高等学校の不登校、中途退学、暴力行為、いじめの状況等は秋頃公表します。

【調査結果の主な特徴】

- ・ 小・中学校における、不登校児童生徒数は122,432人と前年度（約12万7千人）より約4,500人減少（約3.4%減）していること。

【調査結果の要旨】

小中学校不登校

小・中学校における不登校児童生徒数は約12万2千人と前年度（約12万7千人）より約4千5百人減少（約3.4%減）し、在籍児童生徒数に占める不登校児童生徒の割合も1.15%と、前年度（1.18%）より0.03ポイント減少した。

不登校児童生徒数は、小学校22,327人（前年度より325人減少）、中学校100,105人（前年度より4,048人減少）の合計122,432人（前年度より4,373人減少）。

○全児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合

- ・ 小学校 0.32% （前年度0.32%）
- ・ 中学校 2.77% （前年度2.89%）
- ・ 合計 1.15% （前年度1.18%）

<担当> 初等中等教育局児童生徒課  
課長 磯谷 桂介（内線2385）  
課長補佐 井上 賢一（内線2392）  
電話：03-5253-3057（直通）

(速報版)

## 平成21年度不登校児童生徒数等について

## 1 不登校とは

不登校とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状態にあること（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く）をいう。

## 2 不登校児童生徒数の推移（国・公・私立）

※中学校には、中等教育学校(前期課程)を含む

年 度	小 学 校				中 学 校			
	全 国		兵 庫 県		全 国		兵 庫 県	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)
10年度	26,017	0.34	1,158	0.34	101,675	2.32	6,167	3.19
11年度	26,047	0.35	1,108	0.33	104,180	2.45	4,841	2.59
12年度	26,373	0.36	1,141	0.35	107,913	2.63	4,906	2.71
13年度	26,511	0.36	1,077	0.33	112,211	2.81	4,922	2.79
14年度	25,869	0.36	957	0.29	105,383	2.73	4,662	2.73
15年度	24,077	0.33	840	0.26	102,149	2.73	4,760	2.86
16年度	23,318	0.32	828	0.25	100,040	2.73	4,585	2.82
17年度	22,709	0.32	832	0.25	99,578	2.75	4,335	2.7
18年度	23,825	0.33	818	0.25	103,069	2.86	4,409	2.76
19年度	23,927	0.34	794	0.24	105,328	2.91	4,430	2.76
20年度	22,652	0.32	763	0.23	104,153	2.89	4,432	2.77
21年度	22,327	0.32	710	0.22	100,105	2.77	4,346	2.69

## 3 不登校となったきっかけと考えられる状況（公立のみ）※複数回答

(単位:人)

区 分	小 学 校	比率 (%)	中 学 校	比率 (%)	計	比率 (%)
いじめ	10	1.4%	97	2.3%	107	2.2%
いじめを除く友人関係をめぐる問題	96	13.7%	914	21.9%	1,010	20.7%
教職員との関係をめぐる問題	23	3.3%	65	1.6%	88	1.8%
学業の不振	49	7.0%	453	10.9%	502	10.3%
クラブ活動、部活動等への不適応	1	0.1%	128	3.1%	129	2.6%
学校のきまり等をめぐる問題	4	0.6%	284	6.8%	288	5.9%
入学、転編入学、進級時の不適応	19	2.7%	145	3.5%	164	3.4%
小計	202	28.7%	2,086	50.0%	2,288	46.9%
家庭の生活環境の急激な変化	82	11.7%	256	6.1%	338	6.9%
親子関係をめぐる問題	144	20.5%	407	9.7%	551	11.3%
家庭内の不和	37	5.3%	173	4.1%	210	4.3%
小計	263	37.4%	836	20.0%	1,099	22.5%
本人の病気による欠席	64	9.1%	301	7.2%	365	7.5%
その他本人に関わる問題	278	39.5%	1,377	33.0%	1,655	33.9%
小計	342	48.6%	1,678	40.2%	2,020	41.4%
その他	80	11.4%	154	3.7%	234	4.8%
不明	28	4.0%	115	2.8%	143	2.9%
計	915	—	4,869	—	5,784	—

比率は、各区分における不登校児童生徒数に対する割合

## 平成21年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動の状況について

(文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より)

### I 暴力行為について

- 本県の1,000人あたりの発生件数は6.3件であり、全国平均4.5件を上まわっており、小学校では全国平均の約2.2倍、中学校では全国平均の約1.4倍となっている。
  - ・ 小学校:715件[1,000人あたりの発生件数2.2件(全国1.0件)]
  - ・ 中学校:2,526件[1,000人あたりの発生件数17.3件(全国12.8件)]
  - ・ 高等学校:392件[1,000人あたりの発生件数3.7件(全国3.0件)]
- また、本県の暴力行為の発生件数は、3,633件で前年度比約0.97倍とほぼ横ばいであり、全国でも1.03倍とほぼ横ばいである。
- 暴力行為の学校内外の発生状況は、学校内が3,307件(91%)であり、学校外は326件(9%)となっている。
- 暴力行為の内訳は、「生徒間暴力」(67.0%)が最も多く、次いで「対教師暴力」(17.3%)、「器物損壊」(14.0%)、「対人暴力」(1.7%)の順になっている。
- 今後の対応として、スクールカウンセラーの配置による教育相談体制の整備に努めるとともに、教育事務所等の学校支援チームを活用した学校支援を行っていく。
  - 特に、小学校において発生件数が多く、これまで拡充してきたスクールカウンセラーの活用など、小学校における生徒指導体制の充実に努める。

#### 1 暴力行為発生件数

学校種	全国			兵庫県		
	発生件数	1000人あたり(件)	前年度比	発生件数	1000人あたり(件)	前年度比
全体	56,727	4.5	1.03	3,633	6.3	0.97
小学校	7,043	1.0	1.11	715	2.2	0.96
中学校	42,578	12.8	1.03	2,526	17.3	0.96
高等学校	7,106	3.0	0.95	392	3.7	1.03

#### 2 暴力行為の学校内外の発生状況

##### (1) 学校内

学校種	全国				兵庫県			
	発生学校数(校)	発生学校数の割合	発生件数	前年度比	発生学校数(校)	発生学校数の割合	発生件数	前年度比
全体	8,169	22.7%	51,070	1.01	410	30.8%	3,307	0.97
小学校	1,670	7.6%	6,532	1.11	97	12.0%	665	1.01
中学校	4,329	43.0%	38,296	1.01	184	51.8%	2,302	0.95
高等学校	2,170	56.1%	6,242	0.95	129	77.2%	340	1.10

##### (2) 学校外

学校種	全国				兵庫県			
	発生学校数(校)	発生学校数の割合	発生件数	前年度比	発生学校数(校)	発生学校数の割合	発生件数	前年度比
全体	3,150	8.8%	5,657	1.14	185	13.9%	326	0.93
小学校	382	1.7%	511	1.05	34	4.2%	50	0.71
中学校	2,099	20.8%	4,282	1.21	113	31.8%	224	1.09
高等学校	669	17.3%	864	0.94	38	22.8%	52	0.70

### 3 暴力行為の内訳

(形態別構成比については、小数第2位を四捨五入しているため、その合計が100%にならない場合がある)

#### (1) 全体

区 分	全国			兵庫県		
	発生件数	前年度比	形態別構成比	発生件数	前年度比	形態別構成比
対教師暴力	8,122	1.02	14.3%	627	1.00	17.3%
生徒間暴力	31,584	1.07	55.7%	2,434	1.00	67.0%
対人暴力	1,586	1.00	2.8%	62	0.70	1.7%
器物損壊	15,435	0.95	27.2%	510	0.85	14.0%
計	56,727			3,633		

#### (2) 小学校

区 分	全国			兵庫県		
	発生件数	前年度比	形態別構成比	発生件数	前年度比	形態別構成比
対教師暴力	1,048	1.05	14.9%	91	0.93	12.7%
生徒間暴力	4,270	1.13	60.6%	580	1.01	81.1%
対人暴力	163	0.99	2.3%	5	0.56	0.7%
器物損壊	1,562	1.09	22.2%	39	0.80	5.5%
計	7,043			715		

#### (3) 中学校

区 分	全国			兵庫県		
	発生件数	前年度比	形態別構成比	発生件数	前年度比	形態別構成比
対教師暴力	6,456	1.03	15.2%	506	1.02	20.0%
生徒間暴力	22,901	1.08	53.8%	1,567	0.99	62.0%
対人暴力	1,148	1.07	2.7%	43	0.69	1.7%
器物損壊	12,073	0.94	28.4%	410	0.82	16.2%
計	42,578			2,526		

#### (4) 高等学校

区 分	全国			兵庫県		
	発生件数	前年度比	形態別構成比	発生件数	前年度比	形態別構成比
対教師暴力	618	0.93	8.7%	30	0.88	7.7%
生徒間暴力	4,413	0.99	62.1%	287	1.04	73.2%
対人暴力	275	0.80	3.9%	14	0.82	3.6%
器物損壊	1,800	0.91	25.3%	61	1.11	15.6%
計	7,106			392		

## Ⅱ いじめについて

○ 本県のいじめの1000人あたりの認知件数は、2.0件で、全国平均5.5件を下まわっている。

- ・ 小学校: 390件 [1,000人あたりの発生件数1.2件(全国5.0件)]
- ・ 中学校: 637件 [1,000人あたりの発生件数4.4件(全国9.4件)]
- ・ 高等学校: 90件 [1,000人あたりの発生件数0.8件(全国1.8件)]
- ・ 特別支援学校: 9件 [1,000人あたりの発生件数2.1件(全国2.3件)]

また、本県の認知件数は、1,126件で前年度より約8%減少しており、全国では14%減少している。

○ いじめの解消状況は、「解消している」(76.4%)及び「一定の解消が図られたが、継続支援中」(19.7%)を合わせた割合は96.1%となっている。

○ いじめの態様は、「冷やかしやからかい」が最も多く63.9%である。

「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」は、5.6%である。

○ 学校におけるいじめ問題に対する日常の取組は多方面から取り組まれており、「職員会等を通じて、職員間で共通理解を図った」が最も多く85.9%、次いで「道徳や学級活動の時間に指導を行った」が83.4%、「校内組織の整備など教育相談体制の充実を図った」57.3%である。

○ いじめの日常的な実態把握のために、学校が直接児童生徒に行った具体的な方法は、「個人ノートや生活ノート等を日常的に実施」が最も多く68.3%、次いで「個別面談の実施」が65.1%である。

○ 今後の対応として、スクールカウンセラーの配置、「いじめ24時間ホットライン」や「ネットいじめ情報相談窓口」の設置など、教育相談体制の充実を図るとともに、道徳教育や体験教育による豊かな心の育成、子ども自身が主役になっていじめの防止や解消に取り組む集団・学級づくりを支援していく。

これらの取組により、引き続きいじめ防止に向けた指導体制の充実を図るとともに、特に重篤な事案の発生防止に努める。

### 1 いじめの認知件数

学校種	全国			兵庫県		
	認知件数	1000人あたり(件)	前年度比	認知件数	1000人あたり(件)	前年度比
全体	70,219	5.5	0.86	1,126	2.0	0.92
小学校	34,494	5.0	0.85	390	1.2	1.04
中学校	31,162	9.4	0.87	637	4.4	0.85
高等学校	4,307	1.8	0.85	90	0.8	0.85
特別支援学校	256	2.3	0.83	9	2.1	4.50

### 2 いじめの解消状況

区分	解消しているもの		一定の解消が図られたが、継続支援中		解消に向けて取組み中		他校への転学等		計 件数
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	
小学校	289	74.1%	92	23.6%	7	1.8%	2	0.5%	390
中学校	488	76.6%	126	19.8%	15	2.4%	8	1.3%	637
高等学校	74	82.2%	4	4.4%	1	1.1%	11	12.2%	90
特別支援学校	9	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9
計	860	76.4%	222	19.7%	23	2.0%	21	1.9%	1,126

3 いじめの態様 ※複数回答

区 分	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		計	
	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる。	260	66.7%	416	65.3%	40	44.4%	3	33.3%	719	63.9%
仲間はずれ、集団による無視をされる。	112	28.7%	130	20.4%	5	5.6%	0	0.0%	247	21.9%
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。	121	31.0%	173	27.2%	39	43.3%	3	33.3%	336	29.8%
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。	22	5.6%	53	8.3%	16	17.8%	0	0.0%	91	8.1%
金品をたかられる。	10	2.6%	18	2.8%	9	10.0%	1	11.1%	38	3.4%
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	28	7.2%	40	6.3%	4	4.4%	2	22.2%	74	6.6%
いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	43	11.0%	54	8.5%	19	21.1%	0	0.0%	116	10.3%
パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる。	6	1.5%	33	5.2%	22	24.4%	2	22.2%	63	5.6%
その他	10	2.6%	18	2.8%	6	6.7%	1	11.1%	35	3.1%

(注)構成比は、各区分における認知件数に対する割合

4 学校におけるいじめの問題に対する日常の取組 ※複数回答

区 分	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		計	
	学校数	構成比	学校数	構成比	学校数	構成比	学校数	構成比	学校数	構成比
職員会議等を通じて、いじめ問題について教職員間で共通理解を図った。	726	89.6%	338	95.2%	101	56.4%	25	61.0%	1,190	85.9%
道徳や学級活動の時間にいじめにかかわる問題を取り上げ、指導を行った。	717	88.5%	328	92.4%	89	49.7%	21	51.2%	1,155	83.4%
児童・生徒会活動を通じて、いじめの問題を考えさせたり、生徒同士の人間関係や仲間作りを促進した。	383	47.3%	204	57.5%	28	15.6%	19	46.3%	634	45.8%
スクールカウンセラー、相談員、養護教諭を積極的に活用して相談にあたった。	362	44.7%	233	65.6%	101	56.4%	6	14.6%	702	50.7%
いじめ問題に対応するため、校内組織の整備など教育相談体制の充実を図った。	461	56.9%	256	72.1%	64	35.8%	12	29.3%	793	57.3%
教育相談の実施について、必要に応じて教育センターなどの専門機関と連携を図るとともに、学校以外の相談窓口の周知や広報の徹底を図った。	194	24.0%	127	35.8%	26	14.5%	6	14.6%	353	25.5%
学校におけるいじめへの対応方針や指導計画等を公表し、保護者や地域住民の理解を得よう努めた。	129	15.9%	60	16.9%	13	7.3%	3	7.3%	205	14.8%
P T Aや地域の関係団体等とともに、いじめの問題について協議する機会を設けた。	116	14.3%	59	16.6%	7	3.9%	0	0.0%	182	13.1%
いじめの問題に対し、地域の関係機関と連携協力した対応を図った。	89	11.0%	54	15.2%	7	3.9%	0	0.0%	150	10.8%
その他	7	0.9%	7	2.0%	9	5.0%	1	2.4%	24	1.7%

(注1)いじめを認知していない学校も含まれる。

(注2)構成比は、各区分における学校総数に対する割合